

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 武豊町立富貴小学校1 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	4年生（2クラス） 75名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	来年度開催される東京オリパラ大会を契機に、障がいの有無に関係なく、一人一人が生き生きと輝き、力強く生き抜くことのできる共生社会づくりの実現に向けた人材育成に努める。
5 取組内容	(1) 障がい者スポーツ体験 ① ボッチャ ② ゴールボール (2) 中嶋茜さんによるお話 ※2012年 ロンドンパラリンピックゴールボール競技金メダリスト
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間に実施した福祉実践教室と結び付け、関連付けて学習することができた。 事前・事後のアンケート結果からも、学習内容への興味関心が高まったことが分かった。 とにかく、子供たちにとって、本物に触れることができたということが一番の財産となった。それも、ロンドンパラリンピック大会の金メダリストであり、トップ選手の競技力はもちろん、力強い生き方からも学ぶことが多かった。 児童の感想からは、「目をゴーグルで隠して『怖い』ということを感じた。また、障がいのある方は、普段からこんな思いをしているのかと感じた。障がいのある方を見かけたら、声をかけたい。」とコメントしており、スポーツを通じて、障がい者理解が深まったことを裏付けていた。



<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本物（パラリンピック大会金メダリスト）に触れさせるようにゲストティーチャーを厳選した。 • 実技指導やより専門的な話ができる講師や教材教具の豊富な大学との連携を図ることで、子供たちにとってより充実した学習内容となるように努めた。 • 福祉実践教室との関連性をもたせ、より充実した活動となるように4年生児童を対象とした。 • 体験を重視し、活動時間を確保するために、2コマの授業時間を活用した。 • 障がい者スポーツを通じて、障がい者理解が深まるように、ゲストティーチャーからお話をいただくことにした。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 当該学年の学習で終わらせず、学習発表会や掲示物作成等で、他学年や保護者へアウトプットさせる場を設定する。そうすることで、体験した児童の学びを確かなものにするとともに、多くの人たちに、オリパラ教育の意義について、周知することになる。 • 競技に必要な用具を手づくりで作成し、効率のよい体験活動にすることが必要である。 • 教員には異動があるため、この取組のねらいを組織として共有し、引き継いでいく必要がある。 • しっかりと教育課程の中に組み込んで、計画的に実践していく機運を高めていくことが大切である。 • 本物に触れる機会の確保については、人材とともに費用負担が生じるため、事業実施に向けた予算確保が必要である。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 子供たちには、「見る・する・支える」の『見る』の観点から、2020東京オリパラ大会を注視させるとともに、実際にテレビ等で見た感想をまとめさせ、その後の学習に関連付けていきたいと考えている。 また、『する』という観点から、来年度以降も障がい者スポーツ体験を実施していきたいと考えている。 • 24時間テレビ関連で、競技用車いすの寄附に応募した。寄附が実現した際には、車いすを活用した競技にも触れさせたいと考えている。 • 東京大会が終わってからのほうがより重要だと考え、推進校として取り組んだことをきっかけとして、継続的な取組をしていきたいと考えている。 • 具体的には、校内授業体制の充実及び町内小中学校への啓発並びに授業公開の実施等を考えている。 • 社会に開かれた教育課程として、地域教育力を有効活用し、引き続き大学との連携を図り、オリパラ教育の推進に努めていきたいと考えている。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」




事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 武豊町立富貴小学校2 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	6年生（3クラス） 83名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 体 育 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目 標 (ねらい)	来年度開催される東京オリパラ大会を契機に、障がいの有無に関係なく、一人一人が生き生きと輝き、力強く生き抜くことのできる共生社会づくりの実現に向けた人材育成に努める。
5 取組内容	<p>ImPOSSIBLE（オリパラ教育教材）を活用した授業</p> <p>(1) 6年1組の実践</p> <p>(2) 6年2組の実践</p> <p>(3) 6年3組の実践</p> <p>◇ 講師（T2）</p> <p>日本福祉大学スポーツ科学部助教 安藤佳代子氏</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> • ImPOSSIBLE（オリパラ教育教材）を活用した授業の実践機会を設けることで、教員にとってもオリパラ教育の必要性について理解を深めるとともに、興味関心を高めることができた。 • 子供たちに、オリンピックはもとより、パラリンピックの存在を周知するきっかけとなった。 • パラリンピック大会や競技種目を知るだけに終わらず、学びを通して、障がいのある方の生き方や想いに寄り添い、ともに生きる社会づくりを考えるきっかけとなった。 • 児童へのアンケート結果から、パラリンピック大会の意義についても理解が深まったことが分かった。 • 同様に、アンケート結果から、競技実施における工夫や競技者を支援する人への関心も高まったと言える。



	<ul style="list-style-type: none"> 4年生時に行った福祉実践教室の学びを想起させ、関連付けて学習に取り組むことができた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 担任が教材を活用し、T1として授業を展開することによって、オリパラ教育の実践力を身に付けさせるようにした。 6年生3クラスで実施したが、各学級の実態に即した内容を担任自らが選択し、学級の特徴を生かそうとした。 学びを広げたり深めたりするために、日本福祉大学からT2として講師を招いた。 より専門的な話ができる講師や教材教具の豊富な大学との連携を図ることで、子供たちにとってより充実した学習内容となるように努めた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一部の学年で実施するのではなく、他学年への拡充が必要と考える。そうすることによって、学年間のつながりが生まれ、継続的でビルドアップした学習になると考える。 座学のみで終わらせず、障がい者スポーツ体験とセットで行うことにより、思考力や実践力がより豊かになると考える。 東京オリパラ大会後の継続的な実践がより重要であり、財源確保や人的支援が課題であると考えます。 大学との連携など、地域教育力を活用し、学習活動の支援体制を構築していくことが重要だと考える。 体育の時間だけではなく、道徳・学級活動・総合的な学習の時間との連携を図り、教育活動全体を通して、計画的な推進が必要と考える。 推進校としての役割を果たすには、一年間では難しいと考える。 したがって、推進校となったことをきっかけに、校内はもちろん、市町単位で拡充していけるような働きかけをする必要があると考える。 <div style="text-align: right;">  </div>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちには、「見る・する・支える」の見るの観点から、2020東京オリパラ大会を注視させたいと考えている。また、大会を観た感想をまとめさせ、これからの社会に生かせるよう働きかけていきたいと考えている。 東京大会が終わってからのほうがより重要だと考え、推進校として取り組んだことをきっかけとして、継続的な取組をしていきたいと考えている。 具体的には、校内授業体制の充実及び町内小中学校への啓発並びに授業公開の実施等を考えている。 社会に開かれた教育課程として、地域教育力を有効活用し、引き続き大学との連携を図り、オリパラ教育の推進に努めていきたいと考えている。